

に單行本として普遍的に行われているので本書に収載することを避けた。

第五群は概説的なもので、本書の「隋唐時代の文化」以下が之に當る。先生は精緻な考證を得意とするのみならず、また綜合の才に長じて居られた。嘗つて中等學校の東洋史教科書を編纂されて、一時大に行われたことがあり、その附録とも言うべき「教授用參考書」は最も分りよい虎の巻として評判が高かつた。先生の綜合的、大觀的な見識は晩年にいよいよ圓熟の度を加えたことは、本書の末尾におかれた「飛鳥奈良時代の文化綜説」に見らるる如くである。これは先生の最終の到達點を示すものであるが、同時にそのまま先生の絶筆となつて了つた。

本書の題簽は三島海雲氏の筆になるものである。本書の刊行によつて現今殆んど入手不可能となつた先生の論文を一箇處に纏めて見ることが出来るようになり、研究者の利便計り知られぬものがあるが、これ偏えに三島氏の援助の賜であり、重ねて厚く謝意を表する次第である。

昭和三十二年十月

東洋史研究會長

宮 崎 市 定